

し天武帝の元年を、還て白鳳元年と云るし給ひ、朱鳥と改元ありしは、帝の末年の御事と云るし給へる者なるべし、まかれば朝廷の白鳳元年は、九州年號の白雉元年にあたり、朝廷の朱鳥元年は、九州年號の朱雀元年にあたるなり、もしまからば、九州年號の白雉朱雀は、朝廷の白鳳朱鳥を擬して唱へたる者といふべし、續日本紀に、白鳳以來、朱雀以前とある、朱雀は、朱鳥の誤にや、日本紀略、嗟峨天皇大同五年九月丙辰詔曰、朱鳥以前未有年號之目、難波之御宇始顯大化之稱とも見えたり、かくて孝徳の御世の白雉は、白鳳なるべき證は、古語拾遺に、難波長柄豐前朝、白鳳四年と見え、大職冠公傳に、天萬豐日天皇、已厭萬機、登遐白雲、皇祖母尊俯從物願、再應寶曆、悉以庶務委皇太子、又白鳳十四年皇太子攝政などあるにて推べし、豐前朝とは孝徳帝の御事なり、天萬豐日はすなはち帝の御諱なり、皇祖母尊とは齊明帝の御事、皇太子は天智帝なり、元亨釋書などにも白鳳十二年、白鳳十四年など、云るせり、また神皇正統紀に、文武天皇即位五年辛丑より始めて年號あり、大寶といふ、是より先に孝徳の御代に、大化、白雉、天智の御時、白鳳、天武の御代に、朱雀、朱鳥など云號ありしかど、大寶より後にぞたえぬ事にはなりぬる、依て大寶を年號の初とするなりと見えたり、これに天智の御時、白鳳と云るせるも、一の證とすべし、さて如是院年代記には、孝徳天皇元年に、大化と年號たて給ひし事見え、六年の下の細書に、白雉元年二月、長門國獻白雉、改元白雉と見え、天武天皇の下の細書に、即位之年壬申改元、朱雀二年の下の細書に、改元白鳳、十三年の下の朱雀元と朱書し、十五年の下の大化元と朱書し、細書に和州獻赤雉、因茲改朱鳥と見え、持統天皇六年の下の大長元と朱書し、文武天皇大寶元年よりぞ年號を大書して、細書に三月二十一日改元、年號始於此、此歲對馬島貢金、由是三月二十一日甲午改元大寶とあり、これらによりておもふに、朝廷にてまさしく年號を建給ひたるは、この大寶を始にて、是より以前の年號は、九州年號とたがひにまがひたるなるべし、白鳳と白雉と、朱鳥と朱雀と、義相近く、大化と大和と音